●〈症例〉

食道に認められた皮脂腺の2例

中熊尊士¹⁾ 井原 厚 山田 至人²⁾ 比企能樹³⁾
 柿田 章 石井圭太⁴⁾ 西元寺克禮 三富弘之⁵⁾

¹⁾いすゞ病院外科, ²⁾同内科, ³⁾北里大学医学部外科, ⁴⁾同内科,
⁵⁾同病理

〔Key Word〕 皮脂腺(sebaceous glands)

はじめに

皮脂腺が食道にみられることは非常にまれとされているが、当院において半年間に2例経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

症例1：58歳男性。

平成5年5月、人間ドックの上部消化管造影検査にて胃ポリープを指摘され、精査目的にて当院を受診した。既往歴、家族歴、理学所見および検査所見に異常を認めなかった。

内視鏡検査にて切歯より約30cmの中部食道に1～3mm大の黄白色調隆起の散在(Color 1)を認めた。大きな病変の表面性状は細顆粒状であった。ルゴール散布では病変部は不均一に染色され、通常像に比べて不明瞭化した。

生検組織像(Fig. 1)では、上皮内および上皮下に泡沫状細胞の集簇を認め、その周囲には基底膜様形態も認められ、病理組織学的に食道皮脂腺と診断された。同症例の約2ヵ月後の内視鏡検査では、生検部で皮

Fig. 1 Histological examination of the endoscopic biopsy were tried. There were acini of various size with clear vacuolated cytoplasm in epithelium and sub-epithelium, and basilar membrane like lesions were seen around them.

腺の一部欠損を認める以外には、特に変化を認めなかった。

症例2：59歳男性。

平成5年7月、人間ドックの上部消化管造影検査にて十二指腸に隆起性病変を指摘され、精査目的にて当院を受診した。既往歴としての胆石症以外、家族歴、理学所見および検査所見に異常を認めなかった。

内視鏡検査にて切歯より約25～27cmの中部食道に黄白色調の扁平隆起の散在(Color 2)を認めた。病変の最大径は約5mmで、表面顆粒状であった。

生検組織像(Fig. 2)では、明るい胞体に類円形の核をもつ大型の細胞を認め、その一部には角化も認められ、病理組織学的に食道皮脂腺と診断された。

考 察

われわれが調べた範囲内で上部消化管内視鏡検査にて診断された食道皮脂腺は、自験例2例を含めて21症例(Table 1)であった¹⁻³⁾。平均年齢は51.8歳で、男女比15：6と男性に多い傾向がみられた。食道占拠部位は上部4例、中部10例、下部4例、食道全体にわたるもの3例と、中部に多い傾向がみられた。個数では、単発例7例、多発例14例であった。また、大きさは大部分が5mm以下で、6mm以上の4例は全例単発であった。内視鏡所見に関しては、大部分が黄白調～乳白調の扁平な小隆起との報告であった。自験例は2例とも黄白調で、表面顆粒状の扁平小隆起として観察された。

食道皮脂腺の起源については Rector と Connerly⁵⁾の1,000例の小児における剖検例において、皮脂腺の迷入は発見できなかったとの報告と、Pava⁴⁾の成人200例の検索で4例の顕微鏡的皮脂腺を発見したとの報告からすると、食道皮脂腺は“化生”性的変化ととらえることもできよう。しかし熊谷ら²⁾は、同一の症例を4年間経過観察し、生検採取部位で皮脂腺の一部消

Fig. 2 The specimens showed a structure with the characteristics of sebaceous glands.

失している以外、著変は認めなかったと報告している。自験例も経過観察中、生検部位は皮脂腺の欠損として認められるのみであった。以上のことから、皮脂腺は“迷入”性的変化としてとらえるのが妥当ではないかと考えた。

その頻度に関しては、剖検例で2%⁴⁾との報告もあるが、内視鏡で発見されることは極めてまれとされている。しかし、熊谷ら²⁾が1991年に本邦初例を報告して以来、その報告も徐々に増加傾向にある。当院において同病変に注目しはじめた平成5年4月より9月までの半年間に施行した上部内視鏡検査は724件で、うち2例に食道皮脂腺を認めており、その頻度は約0.3%であった。さらに、その2例は同一検者による発見であることから、特定の検者に限ると、205件中2例約1.0%の頻度で認められた。以上より、食道の内視鏡観察時、黄白調の扁平小隆起をみた場合、それほどまれでない疾患として念頭におくべきであろうと考えられた。

文 献

- 1) Hoshihara Y, Hashimoto M: Ectopic sebaceous glands in the esophagus: Report of two cases. Dig Endosc, 3 : 247~249, 1991
- 2) Kumagai Y, Makuuchi H: Four cases of ectopic sebaceous glands confirmed endoscopically in the esophagus. Dig Endosc, 5 : 238~244, 1993
- 3) Ishii K, Mitsuhashi T: Three cases of sebaceous glands in the esophagus. Dig Endosc, 6 : 201~204, 1994
- 4) Dela Pava S, Pickren JW: Ectopic sebaceous glands in

Table 1 Twenty-one cases of sebaceous glands in the esophagus including our cases have been reported.

No	年	報告者	年齢 性別	主訴 原疾患	内視鏡所見		
					形状	個数	部位
1	1978	Ramakrishnan	44M	十二指腸潰瘍	1-5 mm 大の丘疹状で黄色調	多発	全体
2	1978	同上	60F	胃潰瘍	同上	多発	下部
3	1980	Salgado	28M	上腹部痛	4 mm 大で円形の黄色調隆起	単発	下部
4	1983	Bambrirra	45F	嚥下痛	1-5 mm 大の丘疹状で黄色調	多発	全体
5	1983	同上	30F	十二指腸潰瘍	2 mm の黄色調の円形隆起	単発	中部
6	1983	Wormann	36M	上腹部痛	3 mm 以下の黄色調小隆起	多発	上部
7	1983	同上	64F	総胆管結石	10 mm 大の隆起	単発	上部
8	1987	Auld	40M	十二指腸びらん	20×10 mm 大の斑状隆起	単発	上部
9	1987	Betta	73M	慢性胃炎	淡黄色の微細な隆起	多発	下部
10	1991	Finet	69M	胸骨後部痛	6 mm 大の黄色調の小隆起	単発	下部
11	1991	Hoshihara	67M	心窩部不快感	1-3 mm の黄色調の丘疹	多発	中部
12	1991	同上	66M	十二指腸潰瘍	4 mm 大の黄色調の小隆起	単発	中部
13	1991	Kumagai	35M	なし(ドック)	1-2 mm の表面分面状の小隆起	多発	中部
14	1992	同上	50M	同上	黄色調の小結節	多発	全体
15	1992	同上	32F	同上	黄色調の小結節	多発	中部
16	1992	Nakazawa	73M	気管支炎	6 mm 大の黄色調の隆起	単発	上部
17	1992	Ishii	60M	心窩部痛	5 mm 大の表面顆粒状の平盤状隆起	多発	中部
18	1993	同上	45M	嚥下困難	1-2 mm の黄色調小隆起	多発	中部
19	1993	Kumagai	55F	なし(ドック)	黄色調の小結節	多発	中部
20	1993	Nakakuma	57M	同上	1-3 mm の乳白色調隆起	多発	中部
21	1993	同上	59M	同上	最大5 mm の黄白調扁平隆起	多発	中部

the esophagus. Arch Path, 73 : 397~399, 1962

- 5) Rector LF, Connerly ML: Aberrant mucosa in the esophagus in infants and in children. Arch Path, 31 : 285~294, 1941

Tow Cases of Sebaceous Glands in the Esophagus

Takashi Nakakuma¹⁾ Atsushi Ihara Yukihito Yamada²⁾ Yoshiki Hiki³⁾
Akira Kakita Keita Ishii⁴⁾ Katsunori Saigenji Hiroyuki Mitomi⁵⁾

Two cases of sebaceous glands in the esophagus were diagnosed by panendoscopy and biopsy. Endoscopy disclosed a flat elevated round granular, yellowish lesion in the middle esophagus.

As sebaceous glands is an ectodermal origin, it is very rare that we observe it in the esophagus, an endodermal origin. But we found two new cases with sebaceous glands in the esophagus during a

half year. Twenty-one cases including our 2 cases during endoscopy have been reported. We consider that frequency of sebaceous glands in the esophagus will be increasing if we perform endoscopy strictly.

¹⁾Dept of Surgery, and ²⁾Dept of Internal Medicine, Isuzu Hospital, ³⁾Dept of Surgery, ⁴⁾Dept of Internal Medicine, and ⁵⁾Dept of Pathology, Kitasato University School of Medicine.

<カラーは13pに掲載>